



東彼杵町立彼杵小学校 学校だより

校訓：「強く 正しく 朗らかに」

学校教育目標：「ふるさとに愛着を持ち、心豊かにたくましく生きる彼杵っ子」

今年の合い言葉 「よく学び よく遊べ」

令和4年9月21日

NO. 24

校長 白水 聡

地域のもの・ことを学ぶ（各学年の学び）

前回に続き、地域の「ひと・もの・こと」を活かした学習の取組をご紹介します。
今回は4年生と6年生です。



9月14日に4年生が総合的な学習「川について考えよう」の学習の一環で、彼杵川の水質を調べました。

まず、川に入って虫取り網を使って、川の中に住んでいる小さな水生生物を採取します。その後、顕微鏡などを使って、その生物の名前を調べ、表に書き込みます。住んでいる生き物によって、その川の水質の状態を判定するという流れです。

調べた結果、彼杵川は「少しきれいな川」であることが分かりました。この水質ならば、ホタルの幼虫は住めるそうです。

子供の感想の中には、「見つかった生き物から水質がわかった。」「今の彼杵川を守るために協力しようと思った。」という記述がありました。身近な環境について考え、さらには町全体の環境について考えるよいきっかけになればと思います。

6年生は、総合的な学習「ふるさと再発見」で、長崎街道散歩に出かけました。嶋田先生が案内役となり、街道の歴史について説明を聞きながら歩きました。

本校の校門前にも「庄屋跡」と記されている案内板があります。ここは江戸時代に上彼杵村の庄屋屋敷として使用され、街道を通る人たちの宿泊所にもなっていたそうです。シーボルト、伊能忠敬、吉田松陰という有名な人物も、ここを通ったと書かれています。

吉田松陰先生といえば「世に棲む日日」（司馬遼太郎著）という本を思い出します。松下村塾を舞台に、激動の時代を駆け抜けた幕末の志士たちの姿が、見事に描かれていると思います。また、「学問とは、人間はいかに生きていくべきかを学ぶものだ。」「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。」などの数々の熱い言葉がよみがえります。



9月15日には、ゲストティーチャーとして佐藤隆善様にお越しいただき、街道の歴史や地元の歴史について教えていただきました。

当時の交通の要所であった彼杵地区。街道の整備に伴って港も現在の位置に移ってきたらしいというお話には、子供たちも「へえ～」とうなずいていました。

先人の暮らしや地域の文化、歴史を学ぶことは、ふるさとを知る上で、より一層の好奇心をもたらせてくれるような気がします。